

第24回

令和三年

十月二十二日《土》

十五時開演(十四時開場)

喜多六平太記念能楽堂

長島茂の会

ながしま

しげの

●狂言

棒縛

野村萬齋

●能

定家

ていか

長島茂



入場券 一階自由席 8,000円 二階自由席 6,000円 (ご希望によりプラス2,000円で指定席をご用意いたします。)

※価格は全て税込です。

●令和3年8月2日(月)10:00より販売開始

長島茂 TEL: 090-6526-3871 喜多六平太記念能楽堂 TEL: 03-3491-8813

文化放送ショッピング TEL: 03-3433-2933(平日10:00~17:00) ※スタッフが対応いたします。

喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/> (24時間対応、要登録・無料)

電子チケットぴあ(Pコード:507-064) TEL: 0570-02-9999(音声自動認識)

イープラス <https://eplus.jp/>

チケット
お申し込み

主催：長島茂の会

共催：文化放送

●お問い合わせ 十四世喜多六平太記念能楽堂 Tel.03-3491-8813

第24回
長島茂の会

令和三年
十月二十三日《土》
十五時開演(十四時開場)
喜多六平太記念能楽堂

【解説】 金子 直樹

【狂言】

棒縛

太郎冠者 野村 萬齋

主 野村太一郎
次郎冠者 深田 博治

休憩二十分

【能】

式子内親王の靈
里女 長島 茂

定家

旅僧 森 常好

大鼓 國川 純
小鼓 大倉源次郎
笛 一噌 隆之

從者 梅村 昌功
從者 小林 克都

都千本の者 石田 幸雄

後見 中村 邦生
友枝 雄人

地謡
大島 輝久
金子 敬一郎
内田 成信
佐々木多門

狩野 了
出雲 康雅
友枝 昭世
粟谷 明生

●終了予定 十八時頃

棒縛

二人の家来が、留守番中に酒蔵の酒を盗み飲んでいると知った主人は、太郎冠者を棒に、次郎冠者を後ろ手に縛って出かけてしまう。それでも酒が飲みたい二人は知恵を絞り、縛られたまま酒を飲むことについて成功する。酔った二人が謡をやらせると大騒ぎしている……。

自由の利かない手で酒蔵の戸を開けたり、舞を舞ったりと、遊び心に裏付けられた自由さがある作品です。観ているこちらも心楽しくなれる、狂言の代表作の一つです。

定家

北国の僧(ワキ)が都に上り、千本のあたりで夕景色を眺めていると、俄かに時雨が降って来たので、傍の亭に立ち寄り、そこへ一人の女性(前シテ)が現われて、これは藤原定家卿の建てられた時雨の亭であると教え、さらに式子内親王の墓につれて行き、内親王が定家卿と人目を忍んで深い契りを結ばれていたが、亡くなりた後、定家卿の執心が篤葛となつてその墓に這いつわり、邪淫の妄執に苦しんでいることを物語り、自分が内親王の幽霊であることを明かして消え失せませす。(中入)僧が読経し、それを喜び、報恩の舞をまゐりますが、また篤葛にまわれ、もとの場に埋もれてしまいます。曲名は「定家」ですが、藤原定家卿は登場せず、定家の式子内親王に対する執念が作り物の篤葛で象徴されていて、古くは「定家葛」といわれたそうです。

典拠は不明です。すでに出来上がった文芸作品に拠つたものではなく、当時流布していた伝説をもとにして作られたものと考えられます。中年の男女の執拗な恋を描いた作品で、女の死後までも、男の執心が篤葛となつてその墓にまわりついて離れないという深刻さと、この二人の身分の高貴さとが交錯するところに表現の難かしさがあります。

『定家』をより深く鑑賞するための講座を行います。詳しくは長島茂、または喜多六平太記念能楽堂までお問い合わせ下さい。(電話番号は、このチラシのおもて面をご覧ください。)

第25回
長島茂の会
令和4年10月22日《土》15時開演
喜多六平太記念能楽堂
【能】「卒都婆小町」長島 茂

- ご注意・お願い
- 演能中は、携帯電話の電源、時計のアラーム等をお切りくださいますようお願いいたします。
 - 場内での写真撮影及び録音は禁止されております。
 - やむをえぬ事情で、出演者が変更になる場合があります。

- 入場券について
- 入場券は8月2日より受付いたします。
 - 入場券はご入金確認後に送付させていただきます。(長島茂に申し込んだ場合)
 - 入場券及び指定席券の振込先
- 三井住友銀行 大宮支店 普通 7201921
長島 茂

●お申し込みくださいました入場券及び指定券の払い戻しは、公演中止のほかは致しかねますのでご了承ください。

